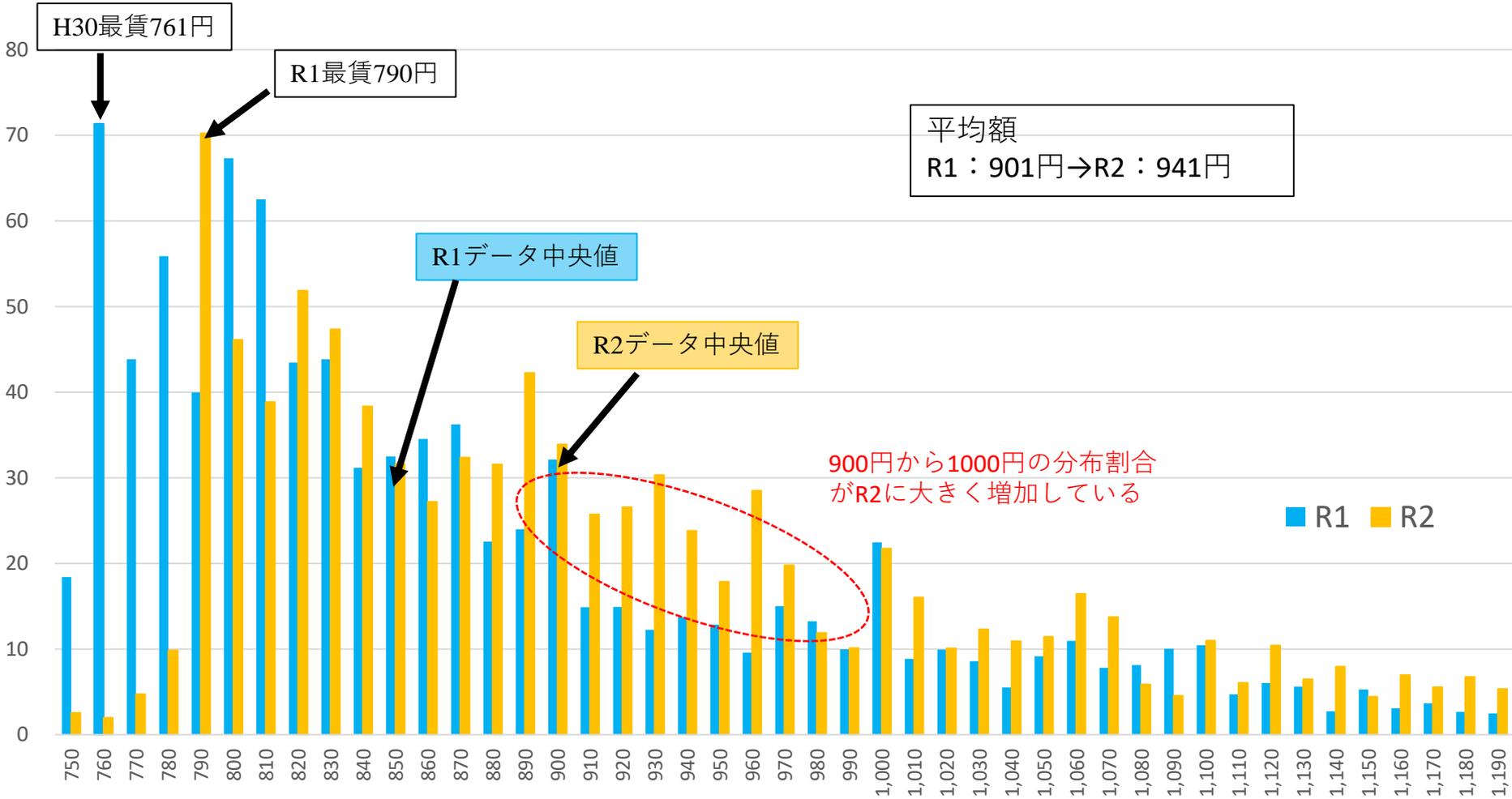


# 鹿児島県における最低賃金額引き上げと短時間労働者賃金分布の関係① (R1→R2)

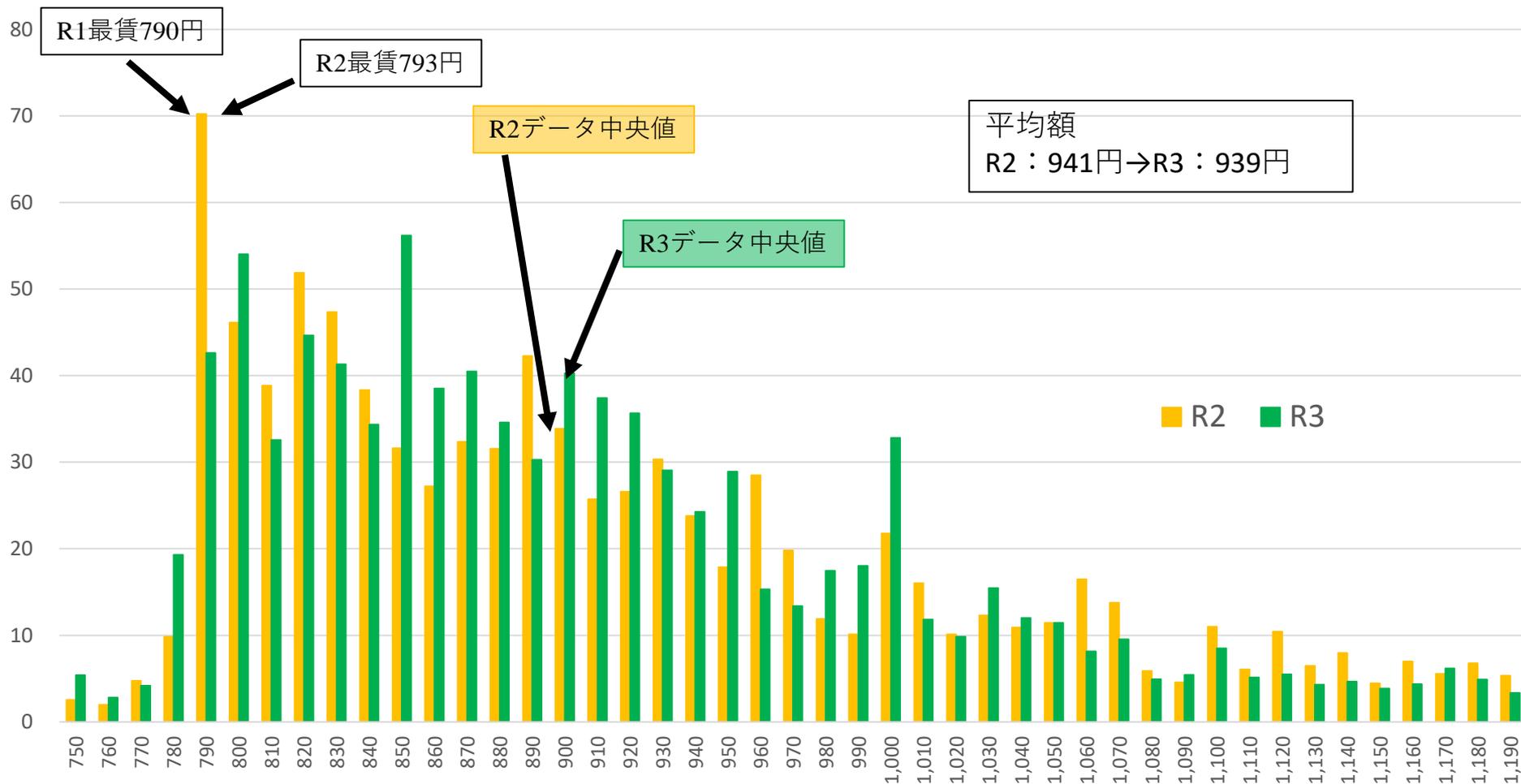
- R1とR2の賃金分布を比較すると、いずれも最も分布割合が多い階級はそれぞれ前年の最低賃金額 (R1はH30の761円、R2はR1の790円) が含まれる階級となっており、いずれも約7%を占めている
- R1の分布の中央値は850~860円の階級、R2の分布の中央値は900~910円の階級となっており、全体として底上げが図られている様子が見える。
- 特に、900円台の分布割合がR1の約15%からR2の約23%と大きく増加している。



注 グラフの縦軸は700円~1500円のうち各金額階級が占める割合を千分率でとったもの。横軸は10円刻みの金額階級で750と表記があるものは750円以上760円未満の階級を指す。なお、750円未満と1200円以上はグラフにおいては省略している。

## 鹿児島県における最低賃金額引き上げと短時間労働者賃金分布の関係② (R2→R3)

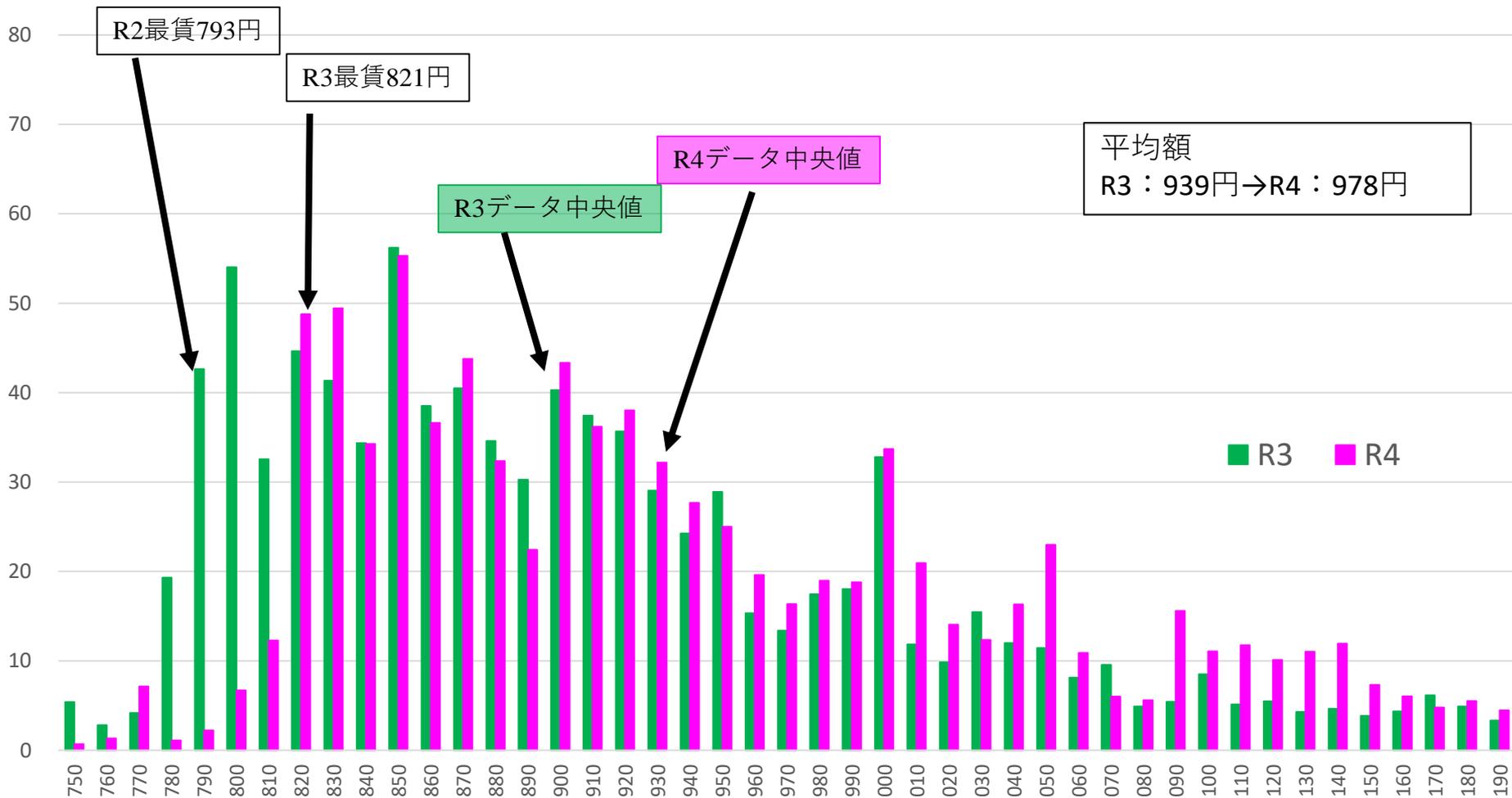
- R2とR3の賃金分布を比較すると、前年の最低賃金額 (R2はR1の790円、R3はR2の793円) にそれほど差がないことからグラフの分布の形も概ね類似したものとなっている。
- R2、R3いずれの分布も中央値は900~910円の階級となっているが、R2は最低賃金額が含まれる階級に約7%分布していたものが、R3には約4%まで減少しており、最も多く分布している階級は850~860円の階級となっている。



注 グラフの縦軸は700円~1500円のうち各金額階級が占める割合を千分率でとったもの。横軸は10円刻みの金額階級で750と表記があるものは750円以上760円未満の階級を指す。なお、750円未満と1200円以上はグラフにおいては省略している。

# 鹿児島県における最低賃金額引き上げと短時間労働者賃金分布の関係③ (R3→R4)

- R2とR3の賃金分布を比較すると、前年の最低賃金額 (R3はR2の793円、R4はR3の821円) が大きく上昇したことに伴い横にスライドしたような形となっており、中央値はR3は900~910円の階級となっていたものが、R4は930~940円の階級となっている。
- R2、R3いずれの分布も最低賃金額が含まれる階級は4~5%程度であり、最も多く分布する階級とはなっておらず、最も多く分布する階級は850~860円となっている。



注 グラフの縦軸は700円~1500円のうち各金額階級が占める割合を千分率でとったもの。横軸は10円刻みの金額階級で750と表記があるものは750円以上760円未満の階級を指す。なお、750円未満と1200円以上はグラフにおいては省略している。